

平成30年4月からの教育組織の変更について

京都工芸繊維大学では、教育研究の一層の充実を図る観点から、平成30年度から下記のとおり、教育研究組織の改組を計画しております。

(1) 工芸科学部

- ◆生体分子応用化学課程、高分子機能工学課程、物質工学課程の統合
- ◆デザイン経営工学課程、デザイン・建築学課程の統合

(2) 工芸科学研究科 博士前期課程

- ◆デザイン経営工学専攻、デザイン学専攻の統合

※いずれの組織改組も既設組織の教育内容を継承しつつ発展的に統合するものであり、これまで展開してきた教育分野を廃止するものではありません。

各入学試験の出願にあたっては、学生募集要項等をご確認願います。

【平成30年度 京都工芸繊維大学 組織整備計画】※括弧内の数字は入学定員を示す

(1) 工芸科学部：課程の統合改組

○生体分子応用化学課程(51名)

○高分子機能工学課程(51名)

○物質工学課程(67名)

○応用化学課程(169名)

○デザイン経営工学課程(40名)

○デザイン・建築学課程(116名)

○デザイン・建築学課程(156名)

(2) 工芸科学研究科 博士前期課程：専攻の統合改組

○デザイン経営工学専攻(M)(20名)

○デザイン学専攻(M)(25名)

○デザイン学専攻(M)(45名)

①デザイン分野における学部課程・大学院専攻の統合（デザイン・建築学課程（入学定員：156名）、デザイン学専攻（入学定員：45名））

既設の「デザイン学」と「デザイン経営工学」それぞれの教育組織（課程・専攻）を統合することによって教育体制を一体化し、デザイン・ビジネス・テクノロジーを融合した実践的PBLを中心とした「デザイン思考教育」を、学部・大学院一貫で展開するための体制を整備。

工学科学部

デザイン・建築学課程（116名）



デザイン・建築学課程
（156名）

デザイン経営工学課程（40名）

工学科学研究科（※博士前期課程）

デザイン学専攻（25名）



デザイン学専攻（45名）

デザイン経営工学専攻（20名）

育成人材像

第4次産業革命に伴う人工知能・ビッグデータ等を活用した産業構造の変化等を見据え、時代に応じて変化する社会的な課題に対し、「デザイン思考」の展開によって新たなサービスの創造や社会実装化を行える人材を育成。

②物質・材料分野における学部課程の統合（応用化学課程（入学定員：169名））

既設の応用化学系3課程を統合し、物質・材料研究における主要分類に関連する4コースを設けることにより、大学院博士前期課程4専攻（材料創製化学、材料制御化学、物質合成化学、機能物質化学）への接続をシームレスに行い、基礎から応用までの教育を一貫して行う学部・大学院教育体制を整備。

工学科学部

生体分子応用化学課程（51名）



応用化学課程（169名）
高分子材料デザインコース
材料化学デザインコース
分子化学デザインコース
機能物質デザインコース

高分子機能工学課程（51名）

物質工学課程（67名）

育成人材像

物質や材料の多様化等を踏まえ、物質、材料、生命現象にかかわる生体材料の成り立ちから応用までもが俯瞰でき、基礎から応用までの幅広い知識（総合力）と高い専門性の素養を身につけた次世代の物質や材料の開発と探求ができる人材を育成。